

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	17人	算数	17人	理科	17人
第5学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人

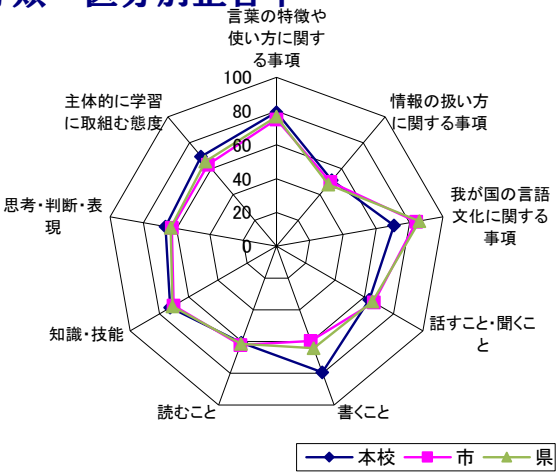
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.4	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	51.0	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	70.6	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	63.5	66.5	65.5
	書くこと	79.4	59.6	64.2
	読むこと	60.8	62.2	61.5
観点	知識・技能	72.7	70.2	71.1
	思考・判断・表現	66.7	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	69.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

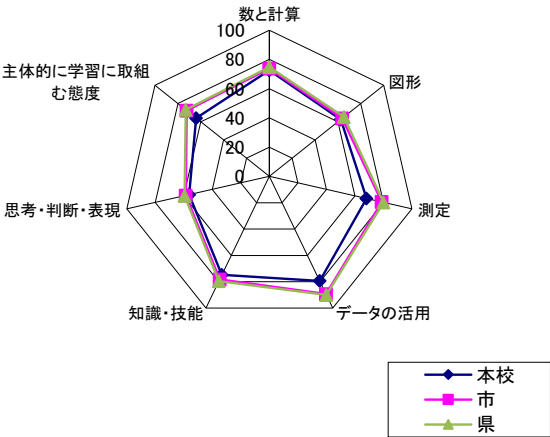
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○漢字の読みと書きの設問については、正答率が高く良好である。日々の家庭学習の定着の成果があると考えられる。 ●国語辞典の使い方の理解について課題が見られる。	・漢字を正しく読むことや書くことの既習内容を定着させていくために、確認として小テストを行ったり、新出漢字を意図的に使って短作文を書かせたりするなど、繰り返し指導していく。 ・国語辞典を活用した学習を意図的に繰り返し設け、辞典引くことに慣れ、その仕組みを理解し活用することの定着が図れるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○説明文の叙述を基に内容をよく読み取る設問では、正答率が88%以上とよく理解している。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問では、課題が見られる。	・読書の時間を意図的に設けながら、様々な分野の本を読むことなどを推奨していく。 ・普段の学習の中で、文と文を読み比べて共通点や相違点に気付かせたり、要約させたりする学習を計画的に取り入れながら、情報を正しく読み取る力の向上を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●漢字のへんやつくりの理解について課題が見られる。	・漢字の学習時に、漢字の成り立ちや部首について取り上げることで、「へん」や「つくり」についての理解を深めていく。また、教室内に漢字の部首に関する内容を掲示し意識付けを図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話の内容を聞き取って話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問では、正答率が高く良好である。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話しているかを問う設問では、無解答もあり課題が見られる。	・話の聞き方について、話の中心は何か意識しながら聞くことの指導を繰り返し行っていく。 ・授業や学校生活の中で、自分の考えの理由を挙げながら話したり、話の意図を考えながら相手の話を聞いたりする機会を計画的に設ける。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を記述する設問で、市の正答率を33.6ポイント上回った。 ○自分の考えを明確にして文章を書く設問も、市の平均を13.4ポイント上回り良好である。 ●互いの意見の共通点や相違点について着目して考えをまとめることに課題が見られる。	・段落構成を意識して記述することや多くの条件について考えながら記述することを継続して指導していく。 ・自分の考えを書く場や時間を設定し、共通点や相違点についても着目させて継続して考えを記述させることで、習熟を図る。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○説明文の内容を読み取る設問では、市と同等の正答率であった。 ●物語や説明文の叙述を基に、人物の心情や内容を読み取り解答を選択する設問では、正答率が低く課題が見られる。	・国語だけではなく他の教科でも様々な文(物語、説明文等)を読み、その内容や登場人物の心情について考える機会や、読解力を問う問題に触れる機会を意図的に増やす。 ・教師が多種の本を推奨したり、読み聞かせをしたり、児童同士が本をお互いに紹介する場を設けたりするなどして、様々な分野の本と出あわせる。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.6	73.8	74.8
	図形	62.4	63.7	65.3
	測定	68.2	78.9	80.1
	データの活用	79.4	89.3	90.0
観点	知識・技能	74.8	78.3	79.5
	思考・判断・表現	56.3	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	64.0	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

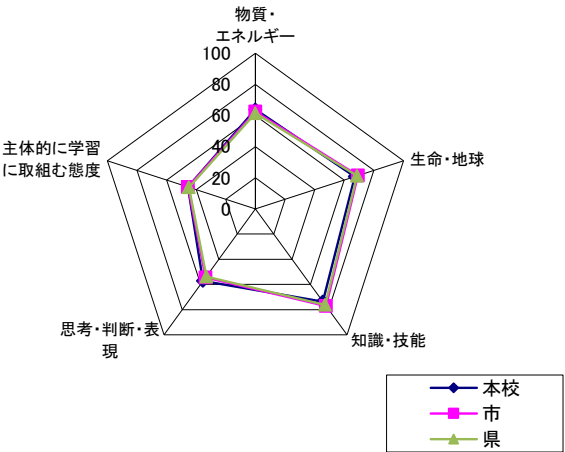
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○2けた×1けた＝3けたの計算や、同分母の真分数＋真分数＝真分数の計算はできている。 ●分子が1の分数が何個で1になるかの理解や、整数－小数第一位の計算に課題が見られる。	・基本的な計算の技能を身につけられるようにながら学習やドリルなどを活用しながら繰り返し練習させ、定着を図っていく。 ・分数は、数直線を用いた指導を大切に、1を何等分したかに着目させながら、分母と分子の意味を理解できるようにしていく。
図形	平均正答率は、市や県より低い。 ○二等辺三角形の作図については、二等辺三角形の性質をよく理解しており、コンパスやものさしを使って、正確に描くことができています。 ●円の直径と半径についての理解に課題が見られる。	・作図を通して、円の直径や半径の関係を理解させたり、問題から読み取れた情報を図に書き込んだりしながら、学習内容の定着を図っていく。 ・朝の活動(がっちり学習タイム)などに図形の性質を使った問題にくり返し取り組ませる。
測定	平均正答率は、市や県より低い。 ○家から駅までの道のりを問う設問では、道のりの意味をよく理解している。 ●時間を求めること、重さを推察して適切な単位を使って表すことに課題が見られる。	・日課表やチャイムなどへの意識を高め、学校生活と結び付けながら指導し、定着を図っていく。 ・身の回りにあるものの重さやその単位に目を向け意識させながら指導をしていく。
データの活用	平均正答率は、市や県より低い。 ●棒グラフのめもりを正しく読み取り、その意味を考えることに課題が見られる。	・グラフの基本的な読み方を復習するとともに、社会科など他教科で活用する円グラフや棒グラフから分かることを確認する場を設け、データを読み取る力をつけていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.9	62.5	61.5
	生命・地球	67.1	69.2	68.6
観点	知識・技能	73.7	77.2	76.3
	思考・判断・表現	57.3	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	45.6	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は市や県の平均より高い。 ○風やゴムのはたらきの設問では、車の動き方が風の向きや強さによって変わることやゴムの性質についてよくできている。 ○物の重さの設問では、物の重さが形などを変えても変化しないことや種類の異なる物質を同じ重さにしたとき、体積がどうなるかについては、県の平均正答率より正答率が高い。 ●磁石の性質について、鉄くぎがどのような磁石になるかや、磁石のN極が北を向くことについての理解に課題がある。	・磁石の性質の理解を深めることができるように、実験結果から分かったことを図や文章で丁寧にまとめることができるようにする。 ・また、実験の結果を共有し考察する際に、結果のみに注目するだけでなく、日常の事象などに関連付けて話し合いを行うことで、身近なものと磁石との関係について考えることができるようにする。
生命・地球	・平均正答率は市や県の平均より低い。 ○太陽と地面のようすの設問について、温度の変わり方や太陽の動きをもとにした影のでき方についてよくできている。 ○植物の育ち方では、ホウセンカの育つ順など、ホウセンカの育ち方についてよくできている。 ●身近な自然の観察では、虫眼鏡の使い方や記録カードの内容の共通点、相違点についての理解に課題がある。 ●昆虫のからだのづくりでは、昆虫の脚が胸についていることなど、昆虫のからだの特徴についての理解に課題がある。	・虫眼鏡の使い方など、器具を使うときのきまりを、一つ一つ確認しながら、安全に使用できるように指導していく。 ・昆虫のからだのづくりの理解や、記録カードの共通点などを見出すことができるように、観察するときの視点を与えるなど活動を工夫しながら指導していく。 ・観察記録からどんなことが分かったか、何に気付くことができたのかを学級全体で話し合いながら確認し、植物や生き物への理解を深めることができるようにしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○生活面では、「早寝早起きを心がけている」の肯定割合が94%、「睡眠時間が8時間以上」が82%、「テレビなどの視聴が2時間より少ない」が59%で県や市の平均より高く、比較的規則正しい生活を送っている児童がほとんどである。

○家庭学習面では、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合が県や市の平均より高く、意欲的に家庭学習に取り組んでいることが分かる。

○授業への取り組みについては、「友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の肯定割合が88%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」が65%で県や市の平均より10ポイント以上の高い。今後も分かりやすく工夫した授業づくりを行い、話し合いや発表などの活動の充実も図っていく。

○全体的に、「毎日の生活が充実している」の肯定割合が94%、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」が82%で県や市の平均より10ポイント以上高い。生活が充実しており、何事も前向きな児童が多いことがうかがえる。

○読書については、1か月に「11冊以上」が最も多く、41%で県や市と比較して10ポイント以上高い。今後も幅広い分野に興味をもち、継続して読書の時間がとれるようにしていく。

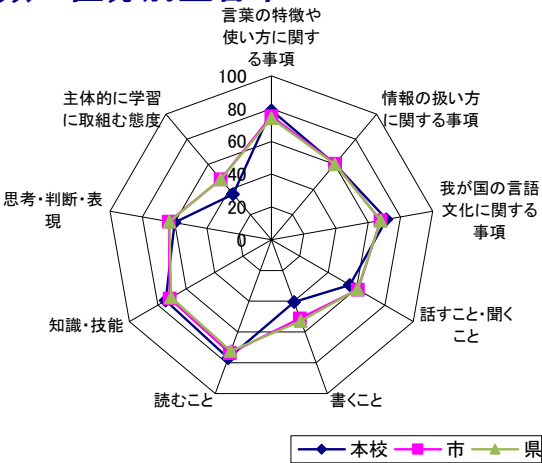
●生活面での「ゲームが平日4時間以上」の児童もいるので、健やかな成長と健康のために、改めて基本的な生活習慣の大切さを家庭と協力しながら支援していく必要がある。

●将来について、「将来の夢や目標をもっている」、「家の人と将来のことについて話すことがある」の質問は、どちらも県や市の平均より10ポイント以上低い。現在だけでなく将来のことにも興味や関心をもち、目標に向かって頑張ることができるよう、学校でも家庭でも考えたり話したりする場を設けていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.0	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	60.3	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	71.4	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	55.2	61.0	60.7
	書くこと	40.5	51.2	52.8
	読むこと	77.0	73.7	72.4
観点	知識・技能	74.5	71.7	70.6
	思考・判断・表現	60.0	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	36.2	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

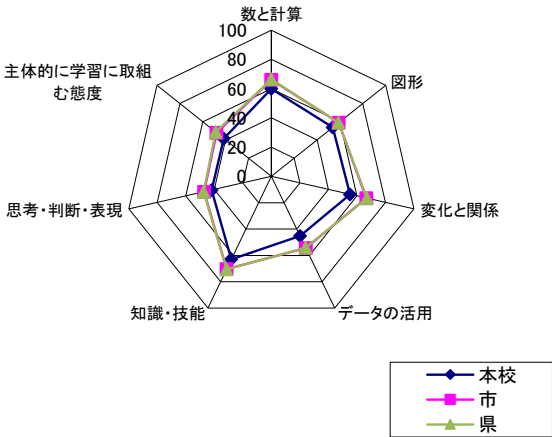
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市や県の平均より高い。 ○第4学年に配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることはよくできている。また、連体修飾語についての理解も県の平均を上回っている。 ●連用修飾語に関する定着が図れていない。	・定期的に漢字小テストを実施し、新出漢字の定着を図っていく。また、音読や読書などを通して漢字の使い方を確認したり、友達と漢字の覚え方について交流し合う場を設けたりし、正しく使えるように指導していく。 ・文法については、取り扱う小単元でドリル等も活用して定着を図ることはもとより、文章の中で取り立てて扱うことを繰り返し行う。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は市や県の平均とほぼ同じである。 ○漢字辞典の使い方についてはよくできている。 ●情報と情報の関係について理解し、理由や事例を挙げながら話すことについては、正答率が低い。	・新出漢字や既習漢字など、折に触れて辞書を引く活動を取り入れ、正しく活用できるようにする。 ・資料を読み取り、必要な情報を選ぶ場面を国語の学習だけでなく、社会や総合的な学習の時間など他教科においても取り入れることで、適切に資料を活用して表現できるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市や県の平均より高い。 ○ことわざの意味を知り、正しく使うことができていく。	・ことわざや慣用句など、教科書以外にも日常会話などで意図的に扱い、多くの言葉に触れる機会を増やしていく。たくさん言葉に触れることで、語彙力を高めていくと同時に、覚えたことわざや慣用句を使いこなすことで、定着を図るようにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市や県の平均より低い。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫をとらえることはよくできている。 ●話合いの内容を聞き取り、司会の立場で考えをまとめることや、それぞれの意見の共通点や相違点に着目して、話合いをまとめることに課題が見られる。	・1分間スピーチ等で、相手意識をもって分かりやすく話す機会を多く設定する。また、その際に自分と同じところや違うところを意識して聞くよう指導することで、普段から相手の意見を聞いて、共通点や相違点に着目できるようにする。
書くこと	平均正答率は市や県の平均より低い。 ●指定された文字数で文章を書くこと、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くこと、さらに、内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いたり、事実と自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。	・授業では、感想や自分の考えを書く機会を多く設定することに加え、教師から文字数を指定するなど、一定量の文章を書く機会を保障できるようにする。 ・グラフや図などの資料を読み取り、文章を書く際には、事実と考えを区別し、文末表現に気を付けて書くことができるようにする。
読むこと	平均正答率は市や県の平均より高い。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有すること、叙述を基に文章の内容を捉えることや段落相互の関係を捉えることはよくできている。 ●登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることや、情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られる。	・物語文を読む単元では、書かれている言葉の意味一つ一つに注目させて読みを深め、登場人物の気持ちを叙述を基に捉えることができるようにする。 ・文章の内容を確認する際には、要旨を確認するだけでなく、要約を作文させることも合わせて指導することで、叙述された言葉を根拠に内容を捉える力を定着させられるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.9	66.1	66.4
	図形	53.7	58.9	58.8
	変化と関係	55.2	66.6	67.0
	データの活用	45.2	54.4	54.2
観点	知識・技能	63.0	70.4	70.6
	思考・判断・表現	41.9	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	41.5	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

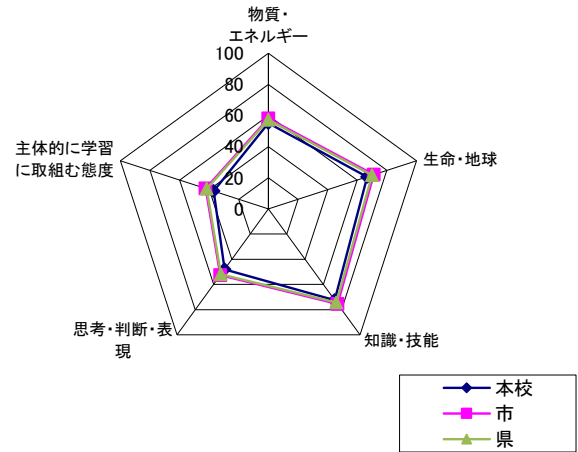
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○与えられた分数を数直線上に示すことがよくできている。 ○小数第一位と小数第二位の加法がよくできている。基礎や基本を意識した取組の成果と言える。 ●整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較をすることに課題が見られた。	・整数と分数の関係についての理解を深めるために、数字で表された分数に面積図を用いるなど、イメージがつかみやすいように授業を展開していく。仮分数および帯分数の指導においては、整数部分と分数部分の意味について、復習していくことで理解を図る。 ・AIDリルや朝の活動(がっちり学習タイム)を活用し、既習事項での自分の苦手を把握し、改善できるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取ることはよくできている。複合図形で、面積の求め方や式を表した図を理解することはよくできている。 ●面積の単位の関係について説明することには課題が見られた。	・面積の単位の関係について、実感を伴う理解が図れるように具体物を利用したり、実物を設置したりするなど、その広さを感じられる場を設定する。 ・説明することには課題が見られたため、授業の中で考えを言葉で表現する時間をより多く設定したり、自分の考えを相手に伝え合う時間も設けたりするなど表現することを意識した指導を行う。
変化と関係	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることができる。 ●伴って変わる2つの数量の関係を□や○を使った式に表す設問は、無回答の割合が23.8%と高く、課題が見られた。	・2つの数量の関係から規則を見出し、□や○を用いた立式をすることには課題があることから、変数を意識した指導の充実を図る。 ・立式するための根拠を言葉で説明する力が十分でなかったと考えられるため、自分の考えの根拠を表現する機会を設けていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○折れ線グラフから変わり方を読み取ることにについては、平均正答率が52.4%で県の平均正答率とほぼ同じである。 ●二次元表を読み取ったり、読み取ったことを活用して、比べたりすることには課題が見られた。	・日常生活において二次元表を読み取る機会が多くはないため、学校生活内で意図的に機会を設ける。 ・表から分かることを使って資料を作ったり、分かった内容を比較したりする活動を算数科だけに限らず、様々な授業内で取り入れていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.1	58.1	57.2
	生命・地球	66.7	71.1	70.0
観点	知識・技能	72.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	48.0	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	37.0	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は市や県の平均より低い。 ○温度による物の体積の変わり方を利用したものを指摘することができている。また、空気のあたたまり方をもとに実験の結果を推測し、あたためられた空気の動き方について説明することがよくできている。 ●乾電池を2個使って、乾電池が1個のときよりも速く走る車にするための回路を作図することに課題が見られる。	・物質・エネルギーの問題に関しては、学んだことを日常生活の中に関連付けて考えたり捉えたりすることで、より理解の定着が図れると思われる。温度による体積の変わり方やあたためられた空気の動きなど、様々な場面で取り上げるようにする。その際には、話し合いを行い、意見を交流させることで思考したことを整理し、知識の定着が図られるようにする。 ・回路図に関しては、作図する機会がほとんどないので、AIDリルなどを活用し、意図的に目にしたり作図したりする機会を多く設定する。
生命・地球	平均正答率は市や県の平均より低い。 ○ヘチマは気温が下がると、種子を残すことを理解している。また、数時間後の星座の星の並び方も理解している。 ●半月の1日の動きを理解し、どの時刻の半月か判断することに課題が見られる。方位磁針の使い方の理解にも課題が見られる。	・生命・地球の問題に関しては、観察によって理解を深めることが多く、視点を絞った見方が重要になる。映像教材を活用することでポイントを指摘したり、繰り返し示すことで学習内容を確実に定着させるようにする。無回答も見られるので、キーワードをもとに学習したことを短文にまとめさせるなど、得た知識を確実に定着させるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習面では、「家で、学校の授業の復習をしている」と肯定的な回答をした児童85.7%、「家で、まちがえた問題について勉強をしている」と肯定的な回答をしていた児童90.5%と、県平均よりどちらも高い。間違った問題をそのままにせず、きちんと直す習慣が身につけており、家庭学習に意欲的に取り組んでいることがわかる。引き続き家庭と連携を図りながら、児童が自主的に家庭学習に取り組めるようにする指導に努めていきたい。
○授業では「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」と肯定的な回答をした児童95.2%、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と肯定的な回答をした児童95.2%、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的な回答をした児童85.7%と自分の考えを説明したり少数人数のグループで話し合ったりする活動を効果的に取り入れた授業づくりを工夫している成果が表れている。今後も継続した話し合い活動の充実を図っていく。
○生活面では「毎日、朝食を食べている」が100%、「早寝早起きを心がけている」71.5%、「平日の睡眠時間が8時間以上」が71.4%と県や市の平均とほぼ同じであり、おおむね良好である。
○テレビの視聴時間は「1時間以上、2時間未満」と回答した児童が33.3%と最も多く、2時間以下は61.9%であり県や市の平均に比べ高い。また、「ゲームは2時間以下」と回答している児童は71.5%で県や市の平均よりも高い。さらに「家でのきまりや約束を守っている」が100%と、比較的規則正しい生活を送っている児童がほとんどである。
○「自分によいところがある」が90.5%、「自分の行動や発言に自信をもっている」は85.7%、「むずかしいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」は95.3%と県や市の平均を大きく上回っており、前向きな気持ちをもって生活している児童が多いことがうかがえる。
○すべての教科において「学習が好き」と答えた児童は70%を超え、同時に「その学習が将来のために大切だ」と回答した児童は80%を超えている。学習意欲の高さがうかがえる。今後も意欲の維持を図るために工夫を凝らした授業づくりを行っていきたい。
● 1日1冊の読書量については、4冊が最も多く29.9%であった。4冊以上も回答した児童は14.9%と県や市と比較すると低い。

宇都宮市立瑞穂野南小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着と家庭学習の習慣化に向けた取組み	①漢字力・計算力向上のための指導の工夫を行っている。 ②「家庭学習強化週間」を設け、保護者とともに家庭学習の習慣化に取り組んでいる。	・児童質問紙の結果から、家庭学習に関する質問に対しての肯定的割合は、市や県の平均より高い結果であることが分かった。また、テストの間違い直しへの取組や、計画を立てて家庭学習に取り組むことについても結果が高い。児童の実態を踏まえて、今後は家庭学習の内容について指導を充実させていく必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
思考を伴う活用問題の誤答や無回答率が高かった。また、記述式で解答をする問題への誤答や無解答率が高かった。	①知識を活用する練習問題の設定。 ②自分の考えや思考過程を文字で記述する場の確保。	・基本的な問題だけではなく、応用問題などにも取り組む場を設け、様々な設問に慣れるようにする。 ・自分の考えをまとめたり、記述解答をしたりする問題に取り組む場を設定する。 ・自分の考えを書くために必要な視点(順序・目的・構成など)を押さえて指導する。